



専士会関西委員会ミニセミナー開催

関西委員会では9月24日（火）に関西会員ミニセミナーを開催しました。

今回は関西委員会の小谷聖理事を講師に「チアーパック®のマーケット動向」と題し、その歴史と市場導入、市場拡大に至るまでの苦労話を講演いただきました。

チアーパック®は日本で初めて(株)細川洋行が軟包装のパウチにスパウトを溶着して、工業化・量産化を開始した容器です。商品化から40年を経過し、現在、スパウト付きパウチの市場自体は日本で12億袋/年まで拡大し、世界的にも様々な用途で使用されています。日本で発信し始めたチアーパック®の採用事例や海外でのスパウトパウチ事情、及び環境対応への取り組みなどを紹介いただきました。

海外ではマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルが進んでいますが、提携先のGualapack社（伊）ではCEFLEX（Circular Economy for Flexible packaging）のガイドラインに沿って、一早くモノマテリアル化に取り組んでいます。

＜チアーパック®の歴史＞

- 1981年 開発開始
- 1985年 商品化成功 日本市場で採用
- 1990年 インターパックにて紹介
- 1991年 EU市場にて採用
- 1995年 デュポン賞ダイヤモンドアワード受賞
- 1996年 中国市場で採用
- 2005年 世界で10億個を超える
- 2008年 米国市場で採用
- 2016年 Japan Packaging Contest 2016
「飲料包装部門賞」受賞
- 2017年 バリアスパウトの商品化
- 2019年 日本市場9.5億個、
海外市場30億個以上の市場へ拡大
- 2024年 チアーパック®ロゴ策定

※Gualapack社ではOPRL（オンパックスリサイクルラベル）による「リサイクル可能認定」を取得



※製品はCPNA製モノマテリアル製品です

